

各 位

上場会社名	東山フィルム株式会社
代表者	代表取締役社長 松原 茂
(コード番号)	4244)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長兼財務部長 腰丸敏雄
(TEL)	(052) 736-2273)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年2月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年12月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,470	148	129	146	39.17
今回修正予想(B)	3,456	278	281	294	78.84
増減額(B-A)	△14	130	152	148	
増減率(%)	△0.4	87.8	117.8	101.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	3,472	64	30	110	29.59

平成23年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,168	360	323	331	88.94
今回修正予想(B)	7,080	473	467	467	125.36
増減額(B-A)	△88	113	144	136	
増減率(%)	△1.2	31.3	44.5	41.0	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	6,800	179	112	146	39.20

平成23年12月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,169	122	122	143	38.46
今回修正予想(B)	3,216	238	235	259	69.62
増減額(B-A)	47	116	113	116	
増減率(%)	1.4	95.0	92.6	81.1	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	3,269	74	66	151	40.63

平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,478	303	294	312	83.66
今回修正予想(B)	6,459	390	386	407	109.26
増減額(B-A)	△19	87	92	95	
増減率(%)	△0.2	28.7	31.2	30.4	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	6,238	109	97	138	37.25

修正の理由

第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高はタッチパネル用ハードコートフィルム、粘着離型用フィルムなどが主に携帯電話・スマートフォン市場向けに伸びたほか、大手素材メーカーからのコーティング受託加工などが好調に推移したものの、パソコン筐体用途の易成型フィルムが海外においてシェアを落としたことにより前回予想をわずかながら下回る見込みとなりました。営業利益、経常利益、四半期純利益は多層コートを必要とする高付加価値製品が増加したこと、コーティング加工の稼働率が向上したことなどによる利益率向上により前回予想を上回る見込みとなりました。

通期業績につきましては、ファインコーティング部門においてスマートフォン向けの高付加価値製品が増加するものの、カスタムコーティング部門においてプラズマテレビ用光学フィルムが減少するほか、印刷材料部門において中国向けの販売が減少する見込みです。このため売上高を前回予想額71億68百万円から70億80百万円に修正しております。損益面ではファインコーティング部門における高付加価値製品増加による利益率向上により、経常利益を前回予想額3億23百万円から4億67百万円に修正しております。

個別業績予想の修正につきましても同様の理由によるものであります。

(注)上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、たぶんに不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上